

平成30年度 第2回小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会 会議要録

1 開催日時及び場所

日時：平成31年3月25日（月）10時00分から11時30分まで

場所：小平市役所 6階 大会議室

2 出席者

(1) 委員

11名（関委員長、神保副委員長、上原委員、川口委員、久保田委員、小林委員、田中委員、西田委員、信山委員、藤原委員、松原委員）

(2) 市側出席者

津嶋企画政策部長、企画政策部相澤政策課長、同井上担当係長、同芳賀担当係長、地域振興部板谷産業振興課長、同増原課長補佐、子ども家庭部森田子育て支援課長、同市川保育課長、健康福祉部櫻井健康推進課長

(3) 傍聴者

1名

3 配付資料

資料1 小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る予算(案)の状況（平成31年度）

資料2 地方創生推進交付金活用事業について

資料3 出合いの創出事業について（平成30年度）

4 内容(議事要旨)

(1) 議題1 小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る予算(案)の状況(平成31年度)

資料1を用いて事務局より、小平市まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた施策全般に係る平成31年度の予算案の状況を説明した。私立認可保育園や学童クラブの新設など、子育て支援に重点を置きつつ、全般的に施策を推進するため予算を配分している。平成31年度は、小川駅西口地区の再開発事業が本格化したことで、基本目標1「住み続けたいまちの空間をつくる」に係る予算が増えている。

(委員長) 市の人口や子どもの人数は増えているのか。

(事務局) 市の人口や年少人口は、微増の状況である。

(委員) 子育て支援サービスの予算が充実しているということで、この経費が子どもたちやこれから子育てをする人に良い場が提供できると良いと思う。地域の子どもたちに平等に支援がいくようにしてほしい。

(委員) 小平市は子育てがしやすいと聞いていたが、よくわかっていなかった。この予算を見て、市が子育て支援に力を入れているということがわかった。

(委員) 保育園や学童クラブだけでなく、自分も利用しているファミリー・サポート・センター事業にも予算をかけていることがわかり、ありがたく思う。

(委員) 子育て支援に予算をかけているが、これからも子どもは増えていくという予測なのか、確実に人口が減っていくという予測のものなのかによって、お金をかけるところが変わってくると思う。施設を拡充していくと、数年後、数十年後には負の遺産となって、壊したり、合併したりしないといけないという状況になるかもしれない。このことを踏まえた予算なのか知りたい。

(事務局) 保育分野でいうと、ご指摘のとおり、未就学児童の人口推計が重要になる。

長期の人口予測については国勢調査をもとにしている。保育園については

子ども・子育て支援法に基づく事業計画を作成しているが、これは5年ごとの人口推計を踏まえた保育のニーズを調査し、捉えており、言わば中期的な予測である。短期的には、毎年の入園の申込状況や待機児童の状況を見る。ハード部分については、建物の耐用年数も勘案する。それらを合わせて検討し、整備を進めている。

(委員長) 基本的には、長期よりも中期でトレンドを見て、毎年微調整をしているということのようだ。まち・ひと・しごと創生総合戦略なので、現在の小平市の人口への対応だけでなく、余裕があれば、引っ越してきてもいいように、市として、市外から移住・定住してくる子育て中のファミリーの住環境を整える支援策でもある。人口を増やすという点では良い戦略ではないかと思う。

(委員) 図書館や公民館などの施設は、昔の「いけいけどんどん」で増やしたイメージが強いので、同じ轍を踏むことのないようにしてもらいたい。

(委員長) 保育の無償化が今年から始まるが、この予算案には反映しているのか。

(事務局) 本年10月から無償化が始まるが、一部を除いて、予算には反映していない。国が制度の詳細を示してから、補助金等を組みなおし、補正予算で対応する予定である。

(委員長) 国からの支援はあるのか。

(事務局) 現在の情報では、私立保育園の運営に係る費用については、国と都の負担が増えるため、市の負担は減るのではないかと捉えているが、市立保育園については、市の負担が増えていくのではないかと思う。

(委員長) 子育て支援策は、未来への投資である。戦略的に、十分に予算をかけてもらいたい。

(委員) (1) 基本目標1①の「農のあるまちづくりの推進」と目標3②の「大学と

の連携を推進する」が小平の特徴であり、推進してほしいと過去の委員会の議論の中で出ていたと思うが、どちらも予算が少ないと感じる。

(2) 目標1の中の施策にある「小平グリーンロードを活用したイベント」に参加したことがあるが、民間業者が事務局を担っていた。こういったイベントと、「市内における“しごと”をつくる」や「地域における“担い手”をつくる」の分野のボランティアなどが連携できれば良いと思うが、行政の縦割りの状況は変わったか。横串をさした予算編成となっているのか。

(事務局) (2) 平成31年度から、グリーンロード推進協議会とブルーベリー協議会の事業を、こだいら観光まちづくり協会（以下、「観光まちづくり協会」）に移行するという大きな動きがある。観光まちづくり協会は、ボランティア組織で、市民が観光まちづくりについて活動しており、グリーンロード推進協議会もボランティアがグリーンロードを活性化して交流人口を増やそうと活動している。目指す目的が同じであるため、観光まちづくり協会にグリーンロード推進協議会の事業を移行することで、さらに活動の幅が広がっていくと考えている。

(1)(2) 農園や、市内産の農産物を使用した店舗等をルートに含めた「めぐるメウオーク」を先日開催した。これからも農と商を連携して、横串をさしていくことを考えている。

(事務局) (1) 予算額として大きくはないが、市内の大学等が加盟する小平ブルーベリーリーグ（小平市大学連携協議会）が組織され、市とさまざまな連携を図っており、さらに今年度は、武蔵野美術大学、津田塾大学、白梅学園大学と包括連携協定を締結した。今後、より一層の連携に取り組んでいく予定である。また、学生団体からの提案を受け付け、協働事業を進める取組

も行う。小平市内の大学は、美術大学など特徴を持った大学が多く、貴重な地域資源と考えており、それぞれの大学や学生の強みを活かした連携事業を進めていきたい。

(2) 連携や横串をさすということについては、例えば、先ほどの観光まちづくり協会に様々な団体活動を集約していくことによって、横のネットワークができ、連携が図られていくと考えており、そういった取組を始めている。平成31年度は、ガーデニングコンテストの展示と表彰をグリーンフェスティバルというイベントの中で行う予定であるが、ガーデニングコンテストの事業も観光まちづくり協会に移行し、市民の様々なアイディアを活かしたいと考えている。また、グリーンフェスティバルのほうは、環境部が所管している事業であるが、地域振興部が所管するガーデニングコンテストと連携し、相乗効果を上げることができると考えている。少しずつこういった取組が進んでいる。

(委員) 出会いの創出事業はほとんど予算額がないが、議題3で別途あげているのは、議論を深めてほしいということか。

(委員長) では、先に議題3の説明を求める。

(事務局) 委員会でいただいた意見をもとに本年度の事業の実施方法を決定したこともあり、今回の議題とした。では、先に議題3の説明を行う。

(2) 議題3 出会いの創出事業について

資料3を用いて事務局より、平成30年度に実施した出会いの創出事業について説明した。平成31年度も観光まちづくり協会への補助事業として、同額の予算での実施を予定している。

(委員) 予算が10万円だが、他の地域ではもっと予算をかけており、小平市も予算をかけて、事業の規模を広げてほしい。

- (委員) 個人的には、以前のダンスイベントなどは敷居が高いと感じていたので、人となりが分かるようなゲームなどをイベントで行えば参加しやすいと思う。
- (委員) 市の事業は18歳から39歳を対象としているが、農協でも後継者対策として結婚相談事業を行っており、先日40～50代を対象としたイベントを開催したら5～6組お付き合いが始まったと聞いている。今後はそういった年齢層も視野に入れてはどうか。
- (委員) 内容的にどのようにバックアップをしていくのか、整理をした上で企画をした方がよい。
- (委員長) 出会いの創出事業には、予算をもう少しかけるよう見直すことを検討するとともに、グリーンロードでのイベントなど、他の事業と連携して多世代の出会いにつなげることを検討するとよいのでは。
- (委員) 以前の会議の中で出た、趣味などをきっかけに次につながるようなイベントにしてほしいといった意見が反映されていないのではないかと。また、今回の事業は告知も目にしなかったが、予算が少ないからではないかと。
- (委員長) 若い世代だと、SNSやスマートフォンで情報収集しているので、そういった告知をするとよい。また、社会教育分野など他課でも出会いの創出になるような事業の実施を検討してもよいのではないかと。
- (委員) イベントに参加した人に他のイベントを紹介したり、参加者に出会いを求めている方をつなげてもらったりして、観光まちづくり協会が行う出会いの創出事業以外の事業と連携していくことを検討するなど、柔軟な考えを持ってほしい。
- (委員長) 個人的に知っている出会いのイベントの中で成功している例が多いのは、料理教室であるので、検討してはどうか。

(委員) 農家やJAとのタイアップなどでも良い。単独の事業ではなく、様々なものとの連携を検討し、出会いの創出と地域活性につなげてもらいたい。

(委員) 数年前、社会福祉協議会と市の共同事業として、婚活事業を実施していた。社会福祉協議会が開催した影響もあり、異性とのコミュニケーションが難しい方がいることが分かり、そういった方でも、一人ひとりの人となりを見てもらえるようなプログラムにつくり変える必要があると感じた。「婚活事業」と銘打って実施したこともハードルを上げてしまったと感じた。人との付き合い方は、婚活だけでなく就労にもつながる。「婚活事業」と「就労相談」を連携させた、コミュニケーションの取り方、異性との接し方のマナー、キャリアコーディネートを学ぶプログラムが良いのではないかと考えている。

(委員長) 単なる出会いの場を提供するだけでなく、人と人をつなげるコーディネーターが必要である。市の職員に担ってほしいというわけではなく、各事業の主催者に勉強してもらおうなど、工夫してほしい。

(3) 議題2 地方創生推進交付金活用事業について

資料2を用いて事務局より、地方創生推進交付金を活用した事業の実施状況について、今年度の中間報告を行った。

(委員) すだちも参加している学園坂商店街のイベントに子どもと一緒に参加し、ワークショップなどで多くの人を楽しんでいる様子を見た。

(委員長) すだちの実績があまり伸びていないが、今は景気が回復しているようなので、すだちに相談に行く前に就職している状況もあるのではないかと。

(委員) テレワーカーへの支払い額と事業経費の差が4倍ほどある。収支の差を埋めるには、単純計算で4倍の人数のワーカーが必要だが、今後登録者が増

えたとして、すだちの体制で運営可能なのか。

(委員長) 登録者の人数を確保することと、それ以上に、ワーカーがスキルアップして徐々に単価を上げる工夫が必要ではないか。

(委員) 交付金が終了した後でも事業を続けるためには、登録者数は多いほうがよいのではないか。大人数に対応できるだけのシステムが必要だ。

(委員) すだちを訪問して、税理士事務所の記帳代行の業務について相談したことがあるが、都心の業者や地方の在宅ワーカーに比べて、単価がかなり高かった。また、個人情報の取扱いなど、コンプライアンスの課題から、請け負える業種が限られてくると感じた。

交付金が終了した後のことを考えると、AIなどの技術が進んでいる中で、現状の一般的な在宅ワークでは事業の継続が難しいと思う。女性や主婦としての感性やアイデアを地域のイベントなどに活かすなど、別の活用も検討したほうが良い。

(委員) 先ほどのワーカーの増加への対応もそうだが、ビジネスとして利益を追求していくことは、現状では難しいのではないか。

(委員長) すだちの事業は、文字や数字だけでは判断が難しいので、実際の運営の状況について聴取する機会がほしい。また、市民の委員にはすだちの現場を見てもらい、次回の委員会で次の一手を提案してほしい。

(委員) 創業支援を小平市で行う意義をどこに見出しているのか、未だに疑問がある。

(委員長) 当初、都心に通うことを負担に感じている主婦や、子育て等でキャリアから離れたことを不安に感じている女性が多いということ把握したうえで事業を開始した。ただし、運営については、当初想定していたものと現在の利用者とは、ミスマッチが生じている可能性がある。事業の見直し

を図る時期に来ているかもしれない。

(委員) すだちには、ワンデーキッチンやサロンという場があるので、農家や子ども食堂などと連携したり、ライターに記事を書いてもらったりできるのではないかと。民間とは違う存在意義を見出してほしい。

(委員) すだちを利用する側からの意見を言うと、就労支援だけでなく、子育て中の母親を孤独にしない、地域でのつながりをつくるという役割を担っていると感じた。

(委員) 働く女性の数は確実に増えている。子育て中の方の就労につなげるということが最終の目的であるかと思うが、その前の活動の場を広げていくことが必要。仲間づくりなども大事である。

(委員) 各種の研修や講座がニーズにマッチしているかについて、推進委員会で検証することも必要ではないか。利用者の設定についてや、孤立感の解消の場なのか、市内で働くためのスキルを習得するための場なのかなどの打ち出しが、小平ならではの特色となっていくのではないかと。

(委員長) 必ずしも支出した予算を回収するというのではなく、育った方が地域のボランティアや市内での活動をして元気を得て、自宅から出て社会活動を行っていくことに意義があるのではないかと。

(委員) 他市の状況を見ても、ハード面よりもソフト面での創業支援が重要であると認識している。限られた、閉鎖的なスペースから、最近ではオープンスペース型の創業支援施設も増えてきている。情報交換の場やネットワーク形成の場があるということは大事である。

(委員) すだちが発足した当初はテレビ等にも取り上げられていたが、現在はどうか。また、視察等の状況はどうか。

(事務局) 直近の数字は手元にないが、7月の委員会の際に一度報告したものとして、

視察については、平成28年度が4件、平成29年度が6件、平成30年度が7月18日時点で4件。テレビ取材については、平成28年度以降の実績で累計3件である。

(委員長) 本日の議題についてはひととおり議論、意見交換したかと思うが、この他に何か質問事項等はあるか。

(委員) 以前も公立保育園が民営化されたことがあったかと思うが、今後公立保育園は減らしていく方向性か。

(事務局) 市の公共施設マネジメント推進計画では、今後の人口の減少の状況や建物の耐用年数、財政状況を鑑みて、公立保育園を現在の9園から5園に減らしていくことを目標としている。

(委員長) 9園から5園というのは、保育園を閉じるというイメージか、民間に委託するということなのか。

(事務局) まだ詳細については決まっていない。東部地域と西部地域では、未就学児童の人口の動きは異なるため、エリアごとの状況をとらえ、公立保育園の定員数をうまく調整しながら、私立保育園へ移行していくかたちや、状況や時期によっては閉園ということもあり得るかと思う。

(事務局) 本日、さまざまな意見をいただいたが、まず、出会いの創出事業について、市としては、結婚しない理由の一つとして「出会いの機会が少ない」という傾向のアンケート回答が多かったことから、ある意味試行的に実施したものである。従来、いわゆる地方部において結婚支援に力が入られてきた状況があるが、東京都においても最近、結婚支援のポータルサイトを開設するなどの動きはある。一方で民間においても様々な結婚支援に係る取組が行われている中で、市としてどの程度取り組んでいくか、行政がどう関わっていくかについては見定めていく必要があるかと思う。この委員会

でも、市が主体となるよりも、地域の団体等が主体となったほうがよいと
のご意見をいただいた経緯もある。そもそもイベント等で出会いの機会を
つくるということであれば、そこまで予算はかからないかと思う。必ずし
も予算を多くかければ良いというものではなく、慎重に検討する必要があ
ると考えている。小平市としては、若い世代に住みやすいまちとするとい
う点では、子育て支援施策のほうに力を入れている状況である。

また、すだちの事業については、運営団体の方では、様々な団体や、近隣
市の同様の事業を行っている団体などと連携して何かできないかという
ことについて模索している状況がある。本日いただいた、すだちの事業に
対する意見等は、団体に伝えていく。すだちについては、コミュニティ的
な活動と経済的・財政的な自立の両立は、難しい面もあるのではないかと
も考えられるが、本日の委員会でいただいた意見も参考として進めていき
たい。

以上